



「鉄道王」の異名を持つ
根津嘉一郎と根津記念館

万延元年(1860年)6月5日甲斐国山梨郡正徳寺村(現山梨県山梨市)の農家に生まれる。東山梨郡役所の書記、後に村会議員、村長を歴任。明治30年代には東京へ進出。東京では若尾逸平や雨宮敬次郎と知り合い、甲州機関を形成。明治38年(1905年)には東武鉄道の社長に就任し、経営再建を行う。資本関係を持った鉄道会社は2社に及び、多くの会社において社長などに就任した。「社会から得た利益は社会に還元する義務がある」という信念のもと、教育事業も手かけ、大正11年(1922年)には旧制武蔵高等学校を創立する。特に山梨県下の全小学校へ200音にものぼるピアノ(後に根津ピアノと称される)やミシンを寄贈するなど、山梨県の教育文化振興に寄与した。山梨市名誉市民。根津記念館は根津家一族の【迎賓館】【地主経営の場】【居住】3つの空間として利用された大邸宅で、旧主屋や三階建土蔵、長屋門は国の登録有形文化財指定。

国登録有形文化財——山梨市
根津記念館
Nezu Memorial Museum in Yamanashi City
〒405-0032 山梨県山梨市正徳寺296
TEL0553-21-8250 FAX0553-21-8251

- ◎開館時間/9:30~16:30(16:00受付終了)
- ◎休館日/毎週月曜日(祝祭日の場合は翌日)
- ◎入館料/大人 300円・高校生 200円・小・中学生 100円(団体割引あり)



【交通のご案内】



- JR◎中央本線山梨市駅より徒歩25分・タクシー5分
- 中央本線春日居町駅より徒歩20分・タクシー3分
- お車◎国道140号山梨小新交差点より2分
- ◎中央自動車道勝沼ICより15分 / 中央自動車道一宮・御坂ICより15分



《鉄道王》と称された根津嘉一郎、 根津家一族の大邸宅を復原。

根津記念館は近代日本を代表する事業家の根津嘉一郎翁の生家を保存、活用する施設です。記念館の敷地は約6,700㎡、そこに国の登録有形文化財である長屋門、旧主屋、土蔵など昭和初期の建造物があり、それに加えて設計図により復原した青山荘と茶室、それらすべてが和風建築の粋をこらしたものであります。そして富士山を借景にした庭には池と美事な黒松（大磯の松）があり、根津嘉一郎翁の気概を象徴しています。純粋な和風の空間に身をおくことによって、日本文化を愛してやまなかつた根津翁ゆかりの芸術、文化の世界をお楽しみください。



国登録有形文化財

【長屋門】

青梅街道に面し、正面16間・側面3間あり、根津記念館の屋敷構えを構成する最大の付属屋で、昭和初期の社会情勢を反映した壮大な長屋門。



国登録有形文化財

【旧主屋】

昭和8年に竣工。大地主根津家の地主経営の場を持つ近代和風建築。コンクリート布基礎、ボイラー設備、屋内消

火栓の導入、電気配線の埋込などが盛り込まれている。



国登録有形文化財

【土蔵】

木造三階建て高さ10.365m。三階建ての土蔵は本地域でも珍しい。土蔵内では根津家に関する資料を展示する。



国登録有形文化財【土蔵】

【展示棟「八蔵」】

国登録有形文化財【旧主屋】

【茶室「燕子花」】

【青山荘】

【大磯の松】

【庭園「笛吹川」】

国登録有形文化財【長屋門「平等」】



【大磯の松】

昭和8年に大磯（現神奈川県大磯町）にあった嘉一郎の別荘から移植された黒松。



【青山荘】

当時の図面をもとに復原された建物。根津翁の郷土山梨での迎賓館の機能を有していた。茶室「燕子花」や和室は利用ができる。



【展示棟「八蔵」】

「旧第八倉庫」の外観と内装を再現した展示棟。常設展示、企画展示室があり、「根津嘉一郎を想い、学び、そして次代に継承する」テーマに根津嘉一郎の生涯をパネルで紹介している。



【ミュージアムショップ「ひらしな」】

